

就職は偶然に出会う幸運

〈セレンディップの3人の王子さま〉

昔、セレンディップの国に3人の王子さまがいました。父上である王さまジアファは、ある日大きくなった息子たちを更に鍛えようと、旅に出すことにしました。

セレンディップを出発した3人の王子は、やがてペルシャの国にやってきました。そして都の近くでひとりの男に出会いました。その男はひどく落ち込んでいて、王子たちは一体どうしたのかと彼に尋ねました。

「ラクダがいなくなってしまったのです。旦那方、知りませんか？」

すると王子たちは、そのラクダを知っているかのように話し始めました。

「お前のラクダは右目が見えないだろ?」「それに歯が一本抜けているね?」「それから足が一本悪くて、引きずって歩くだろう?」

それがすべて当たっていたので、ラクダの持ち主の男は3人が自分のラクダを本当に見たのだらうと思って、王子たちが来た方を探したのです。しかし見つかりません。

男は道を引き返し、また王子たちに会いました。

「旦那方、ラクダはあっちにはいなかったよ・・・本当に見たのかね? どうして知っていたのかね?」

するとまた王子たちは話し始めました。

「お前のラクダが背負っている荷物は、片側がバター、もう片側は蜂蜜だね」「それから身ごもった女性を乗せているね」

またまた王子たちの言うことが当たっているので、ラクダの持ち主の男は思いました。

(こいつらはきっと、私のラクダを盗んだのだ! でなけりゃ、こんなにいろいろ知っているわけがない。)

そこでラクダの持ち主の男は王子たちを訴え、王子たちは皇帝の兵士たちに捕らえられてしまいました。

しかし、それからまもなくラクダは見つかって、王子たちの容疑は晴れました。

皇帝のベラムは不思議に思い、「どうして見たこともないラクダのことがわかったのだ?」と王子たちに尋ねました。王子たちはスラスラと答えました。

「道ばたの草が、左側だけ食べられていました。だから、右目は見えないと推理したわけです」「草を噛んだ跡を見て、歯が一本ないのだな、とわかりましたよ」「片足を引きずった跡が道についていました」

「道の片側にはアリの巣がぞろぞろいまして、もう片側はハエが飛んでいました。だから、アリの巣がいた側は蜂蜜、ハエがいた反対側はバターを乗せていたと思いました」「ラクダが座った跡のそばに、手の跡があって、おなかの大きい女性がよこらしよと手をついたのが見えるようでした」

ベラムは王子たちの機知(その場でとっさに働く知恵)に驚き、自分のそばに置いていろいろな問題を解決させました。

やがて、王子たちは惜しまれながらペルシャを後にし、セレンディップへ帰って行きました。

そして、それぞれ別の王国の王となり、幸せに暮らしたということです。

セレンディピティ(Serendipity) …偶然に良いものを見つけ出す力、偶然出会う幸運

セレンディピティ(Serendipity)は本当に単なる運? 偶然? なのでしょう。

「たまたま」ではなく、「偶然に出会う幸運」は自分で見つけているのです。

その為には3つの能力を常日頃から心掛け、養う必要が有ります。

3つの能力

Awareness	気付く	[周りを観察する力、物事を深く知ろうとする力]
Acceptance	受容する	[相手を受け入れる力、未知を受け入れる力]
Action	行動する	[自ら行動する力、機会(チャンス)を逃さない力]

